

関口 詩織

脱原発×STOP 浜岡 代表

国際基督教大学 学生

友人と中部電力へ浜岡原発停止を求める申し入れ (2011. 3. 20 : 名古屋)

卒原発パレード 主催者代表 (2011. 3. 27、5. 8 : 名古屋)

友人と大学単位で「若者会議」を開催 (2011. 5. 17 : 関東)

経産省前にて「将来を想うハンガーストライキ」の実施 (2011. 9. 11~9. 21 : 10 日間)

中部エネルギー市民会議 呼びかけ人 他



◎メモ… 私のパブコメを載せておきます。11/18 の会議でお話ししたいことの要素が若干入っています。

【ゼロシナリオを支持】 第5の選択肢(0、15、20~25%、システム変革の4つの選択肢があったときのオルタナティブという意味)の提案:「持続可能(人類生存)ビジョン」をもとにしたゼロシナリオ。

【理由】 1. 各選択肢が「成長ビジョン」のままで、私の目指す社会像「持続可能・共生ビジョン」と相反するので本当はどれも支持できないが、最も私のビジョンに近いエネルギー政策がゼロシナリオだった。
2. 提案している側である日本政府への信頼感のなさ。あ、ウソだ！信頼できないな！という直感と、それをうらづける証拠のあまりの多さ。

【各理由についての説明】

1. 各選択肢が「成長ビジョン」のままで、私の目指す社会像「持続可能ビジョン」と相反するので本当はどれも支持できないが、最も私のビジョンに近いエネルギー政策がゼロシナリオだった。15%や20~25%が現実的であるという意見があるが、どの選択肢もモデルケースであり不確実性=実現可能性は同じで、政策の実現のカギは国民のやる気しだいである。政策実現に及ぼす影響は、政府側の政策が実質的に3割、国民一人ひとりが日常生活レベルでその政策が目指す社会像(ビジョン)を共有したうえで起こす具体的な行動が7割だと考えている。(たとえば池田隼人首相の所得倍増計画の実現の過程:ひとりひとりが「自分の所得を倍にする」という生活レベルでのビジョン共有とそれにむけた一人一人の行動で、首相が政策を打ち出したときに試算された年数よりもずっと短い期間で実現した)つまり、ビジョンの一致が支持する政策選択の上で最も重要である。そこで各選択肢のビジョンを見比べてみると、どれも既存の「経済成長、貨幣経済ビジョン」であり、正直なところどれも選べない。そこで「持続可能(人類生存)ビジョン」をもとにしたゼロシナリオという第5の選択肢を提案したいし、選択肢にこれがあれば私は支持する。しかし、いまはないので、最も私のビジョンに近いエネルギー政策を選んだ。
2. 提案している側である日本政府への信頼感のなさ。あ、ウソだ！信頼できないな！という直感と、それをうらづける証拠のあまりの多さ。親子関係を例に、私が直感を信じる理由をまず。親にあなたを愛しているから(あなたの幸せ、人生、命を大切に思って)、あなたのためだから、と言われても子どもながらに直感で「あ、今この人は理想の子ども像を押し付けようとして、私のありのまま、希望を認める気がないな」と分かり反発した記憶がある人は多い(特に進路を決める時とか)と思う。このように本心からの言葉でない限りは子どもでも一瞬でウソだと察知するし、何かしらの違和感を持つ。しかも、親が子どもの希望を無視してどうこうしてやろうと秘密会議をしているなどの信頼できない証拠があればなおさら信頼できないのは当然だろう。そして、この親子関係は日本政府と私のあいだに起きていることと全く同じなのだ。たとえば、政府には、原発がないとなにか人命にかかわる何か一大事が起こるといい、0シナリオを否定する人が多い。スピーディーに原発をなくすことが本当に人の命を危うくするなら即全廃炉は必要ないのは「持続可能ビジョン」を持つ者にとっても当然だが、何を言われても信頼できない。政府への直感的な不信とそれを裏付けるような事実、証拠があまりにも多いからだ。